



●三位一体後第六主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。

## 互いに愛し合いなさい

過越祭の「いけにえ」として屠られる日を迎え、弟子たちとはほんのわずかな時間だけが残り、主は「子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。わたしが行く所にあなたがたは来ることができな」と語られました。いつまでも共におられ、主が再建されるイスラエルに与ることも夢見てきた弟子たちです。戸惑うその弟子たちに主は「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによつてあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」と語られました。

その時、「主よ、どこへ行かれるのですか」と聞くペテロ。ペテロをはじめ弟子たちの最大の関心事は「主がどこに行かれるのか」でした。しかし、十字架を前にした最後の数時間を残す中、主の最大の関心事は弟子たちが「互いに愛し合う」ことでした。彼らが愛し合うことによつて、キリストの弟子であることが証しされることを願われたのです。

3年ほどの年月を、主は12人の弟子たちと行動を共にされました。3年、人と共にすると、性格、くせ、欠点など、いろいろと見えてきます。互いに足を洗い合うどころか、人の欠点をいろいろと見て知っているからこそ、互いの足を洗えないのです。その人の召使いのようにはなりたくないので、夕食の食卓に着くまで、汚い足のまま自分と仲間たちを見ていてもなんとも思わず、水を汲んでこようとさえ思わない。それどころか、ついこの前まで、誰が一番偉いかと互いに議論していた弟子たちです。

その彼らに必要なのは、すぐ出て行つて「社会に、世界に仕える」ことではなく、まず11人が「互いに愛し合う」ことでした。自分が決して洗いたくないと思う、目の前にいるこの人の足元までへりくだる、それが不自然ではない心にまで、生まれ変わることがなければなりません。

そして、私たちは目の前にいるその11人の弟子の足を、

彼らの足元までへりくだつて洗う主だからこそ、世界の人人々、歴史のすべての人に救いをもたらす十字架を背負われたとの事実を見なければと思ひます。身近な兄弟の足を洗うことなくして、「世界のため、社会のために自分をささげる、主の十字架の道をついて行く」と言うのは雲を追うようなことです。弟子たちに「今はついてくることができな」と言われたのも、ついてくる事ができるほどへりくだつた信仰ではなかつたから、と思うのです。

使徒パウロは夫婦が主の体なる教会だと示しています。夫には妻を十字架の愛を持って愛するように、妻にはその夫に従うようにと教えられています。最も身近な夫婦の間、人生の最後まで愛し、最後まで従う。欠点も弱点も愚かさも知っていると思うからこそ、この世の人々にはできないことです。心からその主の教えを実行して生きるためには、どうしてもなくてはならないことは、相手に対し評価を下し、相手を変えようとする心を捨てることです。また夫婦の関係でさえ互いに愛し合うためには、自分のプライド、高ぶり、妬み、利己心、すべてを捨てなければ、できないのです。相手を変えていくのではなく、私が生まれ変わらなければ決してなし得ないということ。使徒パウロは「愛は忍耐強い。情け深い。妬まない。自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、恨みを抱かない。苛立たず、自分の利益を求めない」とも教えています。このキリストの愛の業に生きるためには自分を削ぎ落とし、捨てる。すなわち古い自分が十字架につけられなければ決して成し得ないことです。

「今はついてくる事ができない」と言われた弟子たちに、主は「後でついて来ることになる」とも語られました。主が予告された通り、彼らはへりくだつた心でキリストの愛を示して生きるのです。私たちも洗っていただいた足で主イエスの跡を最後までついていきたいと心から願ひます。そのために、目の前の兄弟の足を洗う、そのへりくだりの心へと一緒に進んでいきたいと心から願ひつております。

# 2024年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

### 《今日のお知らせ》

○ 礼拝後、礼拝堂で讚美集会と信仰者たちに学ぶ会を行います。讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会が行われます。

○ 7月1日付で朝田恵姉妹が附属幼稚園の園長に就任しました。引き続き、幼稚園、姉妹のためにお祈りください。

### 《ぶどうの会より》

○ 七月のぶどうの会は休会です。

### 《今後の予定》

○ 七月一〇日～一二日 附属幼稚園奥多摩キャンプ

○ 七月二四日 諸聖徒記念礼拝

○ 七月二一日 定例役員会

○ 七月二八日 転入会式

### 《信仰者に学ぶ会について》

一 一時四五分目途開始（礼拝後一〇分程度の時間を経て開催）一三時までには終了予定です。

○ 聖書箇所 ヘブライ人への手紙二一章二三節

（新約四一五頁）

ヨセフの信仰を学びます。

○ 開催方法

黄先生のお話による全体会（礼拝堂）

←

グループでの分かち合い（各部屋）

←

全体会（地下ホール）

《ジュネーブ教会信仰問答》

第九聖日

使徒信条「十字架にかかり、死んで葬られ」に関して

問六〇 彼が十字架につけられたことは、それ以外の方法で彼を死に至らせるより以上の意味を何か含んでおりますか。

答 はい。使徒がこれを証しして、彼はわれわれの呪いをご自身の上に移し、われわれを呪いから解き放すために木に懸けられなされた、といっている通りであります。それは、この種の死は神から呪われていたからであります。

問六一 どうしてですか。神の面前においてまでも、呪いに服せしめられなされたということは、主イエスをはずかしめることではありませんか。

答 決してそうではありません。なぜならば呪いを受けつつも彼は、そのみ力によつて、呪いを絶滅なさいました。かくて彼は、われわれに彼の祝福を満たすために、なお変わることなく祝福を常に受けておられるのであります。

問六二 その次を説明してごらんください。

答 死は罪のゆえに人間への呪いでありましたので、イエス・キリストは死を耐え忍び、またこれを忍びつつこれに打ち勝たれたのであります。また彼の死が本当の死であったことを明らかにするために、彼は他の人々と同様に、墓に納められることをのぞまれたのであります。

問六三 しかし、われわれは死ぬことを少しもやめないのですから、この勝利はわれわれに何かの益をもたらすように思われませんか。

答 それは何ら妨げになりません。なぜならば、私たちの死は、今や彼らをよりよい生命へ導くための、通路にほかならないからであります。

問六四 その結果、われわれはもはや、死をあたかもおそろしいことのように、恐れるべきではなく、かえつて、われわれを亡ぼすためではなく、救うために、そこへ先立ち進まれるわれわれのかしらであり長であるイエス・キリストに、喜んでついてゆくべきであるということになります。その通りであります。

外山八郎訳（新教出版社1979年）使用

《今日の子ども礼拝》

説教 「この方はどなたなのか」  
聖書 マルコ4章35〜41節  
説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

● 子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）  
説教 「タリタ、クム」  
聖書 マルコ5章21〜24節、35〜42節  
説教者 宮間彰広 兄

諸聖徒記念礼拝

● 主日礼拝（午前10時30分）  
讃美歌 12番 488番  
説教 「神を愛し、主イエスを愛して」  
聖書 マタイ9章9〜13節  
説教者 吉村和雄 名誉牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 7番 507番  
説教 「神を欺いたアナニアとサフィラ」  
聖書 使徒5章1節～11節(新約 P.221)  
司式 石川 一兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「我、心より汝を愛す」J.P.スウェーリンク

### ○讃美歌7番

1. 主のみいとみさかえとを こえのかぎりたたえて  
またき愛とひくきこころ 御座にそなえひれふす
2. ゆだねまつるわが重荷を 主はかわりて負いたもう  
なやみおおき世の旅路も 主のいませばやすけし
3. よろこびもて御前にいでん まずしき身のささぐる  
愛とまこと主は嘉みして みくらちかく召したもう
4. 闇をかえてひかりとなす なぐさめぬしとうとし  
のぞみは湧き おそれは消え み民のさちつきせじ  
アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「バビロンの流れに」 G.P.ダバレストリナ作曲  
流れゆくバビロンのほとりに  
我ら座し  
涙流して泣けり  
はるか思いをシオンに馳せ  
琴を柳の木にかけ  
我ら涙流し泣けり

### ○讃美歌507番

1. ふかきみむねを さとりえせず  
くしきみのりを うたがいつつ  
われをたのしみ おろかしさよ  
今はさとりぬ いまは悔いぬ  
※くりかえし  
ちちのかみよ すくいたまえ  
心をつくして わがたよれば
2. かみよりいでし 身をわすれて  
やがて朽つべき 世のたからを  
あだにしたいし おろかしさよ  
いまはさとりぬ いまはくいぬ ※
3. あまつみそのの 春をよそに  
咲きてかつ散る もろぎ花の  
色香に酔いし おろかしさよ  
今はさとりぬ いまはくいぬ ※  
アーメン

聖餐曲「おお主なる神、我をあわれみ給え」J.S.バッハ

後奏曲「後奏曲ニ長調」F.メンデルスゾーン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。